

技術資格試験合格体験記

まずは、チャレンジしてみませんか？



取得した資格：技術士(建設部門：施工計画)
資格取得年度：令和5年度

たか せ あさ こ
高瀬 朝子*

技術士試験にチャレンジするまで

ある方から「役所の職員は受注者に資格を求めるのに、なぜ自分たちは資格を取得しないのか？」と問われ、私は「確かにその通りですね」と返答しました。仙台市では、係長職以上に昇進する際に試験が実施されます。私は30代半ばでその試験に合格し、ちょうど試験を終えた時期にそのようなやり取りがありました。

それを契機に、昇進試験で得た土木に関する知識を忘れないうちに、積極的に試験に申し込み、1級土木施工管理技士やコンクリート診断士の資格を取得しました。そして次に何を取得しようかと軽い気持ちで考えた結果、技術士に挑戦することにしました。

部門と選択科目は何にしよう？

技術士に求められる資質能力を読んでもみると、「実務経験に基づく専門的学識」とのこと。そのような専門的学識、私は持ち合わせていない！ハードルが高すぎる！土日は勉強したくない！平日も毎日勉強できない！でも、技術士試験は受けてみたい！という相反する思いから、最も省エネで合格を勝ち取れそうな選択科目を選ぼうという結論に至りました。実務経験の長さでは道路か鉄道なのですが、そもそもそれらの基礎がない私には過去問を見ても全くわからず、次の選択科目の候補が施工計画でした。入庁以降20年近く施工計画には携わっており、質は

ともかく、経験だけは十分足りており、過去問を見ると、解答用紙を白紙で提出することは避けられそうだと感じました。

筆記試験における傾向と対策

何事も受験しなければ合格は勝ち取れないという私の信念に基づき、数年間、毎年4月に申し込みを行い、気がつけば7月になり、勉強をせずに筆記試験の会場に足を運ぶことを繰り返していました。もちろん不合格でしたが、毎年届く成績通知を見て、いくつかのことに気づきました。選択科目Ⅱは特に勉強しなくてもそこそこ良い評価が得られること、そして合格を目指すには必須科目Ⅰと選択科目Ⅲをしっかりと勉強する必要があるということです。その後、参考書を購入したり、技術士試験対策のHPを閲覧したりしましたが、私には全く響かず、また今年も勉強せずに受験会場に向かうのかと考えていました。そのような折、技術士の知人から貴重なアドバイスをいただき、腑に落ちました。技術士は国家資格であるため、「評価は国土交通省の施策を理解しているかどうかに基づいている」、「国の考えが全てであり、主観的で独創的なアイデアは評価されない」、「国のトレンドを把握することが重要である」というものでした。つまり、広範囲にわたる知識を持つのではなく、最新の国土交通省の施策の内容をしっかりと把握すれば良いということでした。

それを聞いてから、筆記試験までの1か月半の間、

* 仙台市 都市整備局 総合交通政策部 地域交通推進課長

暇な時には国土交通省のHPを閲覧し、最近の審議会資料、トップページに掲載されている施策に関する建設部門や施工計画に関連する情報を読みました。また、この体験記が掲載されている本誌は、毎号、最新の話題に基づいた特集が組まれており、国等の関係者が課題の認識、複数の解決策や効果などを明確にまとめているため、解答案を作成する際に非常に役立ちました。

口頭試験における傾向と対策

筆記試験から3か月が経過した頃、いつもとは異なる封筒が郵便受けに届いているのを見つけました。この貴重なチャンスを逃すわけにはいきません。嬉しさと同時に不安を抱え、筆記試験の対策を教えてくださいと知人に「口頭試験ではどうすればよいでしょうか?」と助けを求めました。その知人はまるで神の啓示のように、「コンピテンシーを意識した回答を心がけること」、「技術者倫理は根気よく覚えること」、「必ず前日には会場に入ること」、「面接官はお客様だと思い誠実に接すること」などのアドバイスをくれました。さらに、その知人はWeb上で模擬面接も実施してくれました。実際に口頭でのやり取りを行う中で、事前に準備した質問と回答に沿って進められていても、頭が混乱してしまうことがありました。そのような状況では、本番でさらに緊張し、うまく答えられないのではないかと考え、無意識に反応できるレベルまで繰り返し練習し、自分のものにしました。通勤中に独り言を言ったり、親しい友人と居酒屋で模擬面接を行ったりしました。

実際の口頭試験では、技術的な受け答えは最初の1問だけであり、その後は業務に関連するコンピテンシーに基づいた行動についての質問が続きました。半分ほどは想定外の質問でしたが、事前に行った反復練習のおかげで、普段とは異なる技術士としての視点を持って回答することができました。質問された内容のほとんどは、公務員としての職務を遂行する際に当然意識していることでした。「技術士」に求められるコンピテンシーは、「公務員」に求められるコンピテンシーとほぼ同じであると考えています。

おわりに

技術士をはじめとする資格試験に挑戦することに躊躇されている方々、自分には関係ないと感じている皆さまにお伝えしたいことがあります。私見ですが、技術士試験には必ずしも高いモチベーションや特別な学力が必要とは限りません（もちろん、それらがあればさらに良いですが）。モチベーションが低くても、まずは受験してみることで、日々、様々な課題に取り組む公務員技術者の皆さまは、自らの業務を振り返り、それを最新の国土交通省の施策や技術士のコンピテンシーと結びつける意識を持つことが重要です。さらに、公務員としての業務を通じて、誰にでも理解できる文章を作成する能力を鍛えていることも、受験に当たり強みになると思います。これらを組み合わせることで、合格の可能性が高まると感じています。

私はこれまでの市役所職員としての経験があったため、合格できたと考えています。地域の方々、受注者の皆さま、何も知らない私に根気強く指導してくださった上司や同僚のおかげでここまで来ることができました。皆さまには心から感謝しています。技術士の資格を取得したことに満足するのではなく、これからが新たなスタートだと思っています。試験で得た知識や考え方は、今後の業務レベルを向上させるために不可欠なものであると考えています。

今後は、業務を通じて社会インフラの維持管理や品質向上に努め、恩返しができればと考えています。技術士に興味を持つ公務員技術者の皆さま、ぜひ挑戦してみてください。いかがでしょうか。

【著者紹介】高瀬 朝子（たかせ あさこ）

平成13年4月仙台市役所入庁。道路部門で国道の新設改良等を担当後、交通局へ出向。交通局では地下鉄東西線建設事業に10年間従事。その後、市長部局へ戻り、道路部門で道路維持や都市計画道路整備事業を担当し、令和4年度に交通政策部門へ移動。令和7年度から現職。